

それゆけ！ としょかんだより



2012年6月
第62号
発行所
高野山大学図書館
閲覧室



ちょっと一息♪ どうぞ、手にとってご覧ください。

図書館用語の第2弾です。
知って得する！？
わからなければ館員まで

りぶダス

-図書館利用の基礎知識-

～初級編～



検索

借りたい図書や雑誌、CDやDVDがどこに書いてあるかを調べて探すこと。

例) 学生A: これ、どこですか?
館員B: パソコンでケンサクしてみますね。貴重書は目録コーナーで!

複写

必要な項目をコピーすること。
著作権にはご注意ください!

例) 学生A: この雑誌、コピーしたいんですけど…。
館員B: フクシャですわ。

～図書館よりおしらせ～

平成24年度第1回お琴コンサート

日時: 7月4日 16:50～18:00

場所: 高野山大学図書館閲覧室にて

演奏者: 桜野清里先生

糀谷有紗さん・小松陽彦さん

塗りつぶしていない
書籍は、図書館に
あります♪

図書館にはいった 月刊ランキング!!

- 『1Q84BOOK2〈7月-9月〉(前)』 村上春樹*
- 『1Q84BOOK2〈7月-9月〉(後)』 村上春樹*
- 『聖女の救済』 東野圭吾
- 『宝引きさわぎ 鎌倉河岸捕物控え20』 佐伯泰英
- 『1Q84BOOK2〈4月-6月〉(前)』 村上春樹*
- 『悲鳴伝』 西尾維新
- 『おそろし 三島屋変調百物語事始』 宮部みゆき
- 『1Q84BOOK1〈4月-6月〉(後)』 村上春樹*
- 『鍵のかかった部屋』 貴志裕介
- 『船を編む』 三浦しをん



2012年6月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2012年7月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

	9:00-21:30		13:00-21:30
	13:00-18:30		9:00-17:00
	9:00-18:30		閉館

館蔵古写真紹介 — 紫雲寮（門柱事件） — 図書館員 木下浩良

本学は、大正 15 年（1926）の旧制大学昇格を契機として、それまでの興山寺跡地（現在の金剛峯寺奥殿付近）から現在地に校地を移転した。校舎・図書館等が新築され、教育環境が一新した。学寮についても、興山寺跡地から新たに現在の高野町役場からさらに北方に入った公会堂敷地に建設されたのである。

学寮の落成式は、昭和 7 年（1932）。木造 2 階建 1 棟と、食堂・炊事場の平屋建て 1 棟の施工には高野山の大彦組があたった。名称を、紫雲寮とした。平成 19 年（2007）の閉寮まで、紫雲寮は存続し続けた。

現在の本学の敷地は上の段と称され、本学の敷地となるまでは料理屋（2 階が遊郭）や商店が軒を並べる、いわゆる色町であった。金剛峯寺と町当局は、この上の段の街ごとを現在の鶯谷に移転させて、本学移転を執行した。余談であるが、大学の移転が完了してもなお、昭和 6 年（1931）当時の校地内には豆腐屋と味噌屋の 2 軒が残っていて教職員や学生の頭を悩ませていた。同件についての詳細は、稿を改めて述べてみたい。

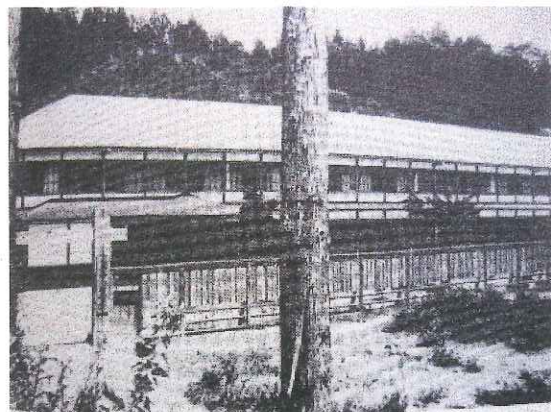
鶯谷への色町移転が終わると、鶯谷側は現在の高野幹部派出所の横の信号機付近に「鶯谷入口」と刻した門柱を立てた。まさに、東京の吉原の大門と同じで、この門柱から中を鶯谷としたのである。問題は、本学学生はこの門柱を通らなければ学寮に入ることができない、ということだった。屈辱的な日々を、学生たちは過ごしていた。

昭和 5 年（1930）頃には鶯谷の門柱は完成していて、既に門柱ができていたところに学寮は完成したことになるが、いずれにしても学寮建設当時から本学当局は門柱の撤去へと各方面に働きかけていたが、その実現には到ってなかった。

そして、昭和 12 年（1937）6 月 20 日の深夜、その時がやってきた。本学の寮生 50 数名が、その鶯谷入口の門柱を、高野山小学校から借用した綱引き用のロープを使って実力行使で引き倒して破壊してしまった。門柱事件と称された本件は事件後、首謀者とされた辻村泰圓・今村文匡ら数名の学生は高野警察署に拘留される。本学の当時の学長は和田性海師で、学生と学生の保証人を前に涙を流しながら、5 日間の停学（毎日三時の例時・奥之院参拝と般若心経十巻の浄写）と 10 日間の懺悔謹慎（奥之院への日参）処分を言い渡した。

ところが、この処分が手ぬるいといきり立ったのが鶯谷側で、県庁や警察に訴え出た。門柱は電柱も兼ねていて、県検事局へ電気事業違反等で学生たちを告発したのである。金剛峯寺当局も事態の収拾へと動き出したが、物事は暗礁に乗り上げてしまっていた。

そこで、本学と鶯谷の両者への仲介に入ったのが就任したばかりの高野町長の藤本真光師（遍照光院主、本学教授）であった。師は、関係者一同を参集させることに成功する。結果、門柱に替わって 3 個の電灯設置で双方が了解。学生に対する告発も取り下げられた。皆が解決不可能と諦めていた難問に本学学生が取り組み、問題解決と導いた門柱事件は、結果的には、本学学生の評判を挙げることになるのであった。



（編集後記）

ちょうど金環日食の日に校了しました。
ちょっとした記念の発行となりました。
（柏田）

発行所

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385 高野山大学図書館 閲覧室
Tel:0736-56-3835 / Fax:0736-56-5590 /
E-mail:service-lib@koyasan-u.ac.jp